

令和 8 年度事業計画

I 公益目的事業の実施

1 教職員に関する研修等の実施

幼児教育の充実を図り、幼児教育水準の向上を図るため教職員に対する研修、キャリアアップ研修等を実施する。なお、一部オンラインで開催する。また、一般の方も受講できる公開講座を設けホームページ等により周知し、広く一般から参加者を募る。

教員等研修会の開催

ア 新任教員研修会（新任教員対象）

4 月、5 月、7 月、8 月、9 月、10 月、12 月に開催

イ 中堅・主任研修会（キャリアアップ）

6 月、7 月、8 月、11 月、12 月に開催

ウ マネジメント研修（特別分野）

開催日程未定

エ 教員研修大会（県北・相双大会）

県内の私立幼稚園・認定こども園の教職員が一堂に会し、教員としての資質向上と今後の幼児教育の充実・発展を目指し、幼児教育の専門家等を招いての教員研修大会を開催する。

開催予定日 令和 8 年 8 月 19 日

開催場所 福島市・福島学院大学（全体会）ほか

オ 教職員海外研修事業：休止

経験年数 5 年以上で海外研修を希望する教員の所属園を対象に、海外における幼児教育の課題や安全管理の状況を視察研修することで本県の私立幼稚園・認定こども園の水準及び教員の資質向上を図る。

2 私立幼稚園等教育振興に資する調査研究事業の実施

(1) 経営実態の調査分析

① 福島県私立幼稚園等実態調査（令和 8 年 7 月頃）

② 幼稚園・保育所・認定こども園に関する各市町村の実態調査（令和 8 年 10 月頃）

(2) 福島県私立幼稚園・認定こども園白書の作成（令和 9 年 3 月）

データ化（県内各市町村、県内私立幼稚園・認定こども園、関係団体等へ公表）

白書概要 連合会の活動状況、各市町村の振興対策事例と現状、福島県私立幼稚園等の財務状況など

3 私立幼稚園教育振興事業助成事業の実施

教育振興事業助成（教職員人件費・教育研究経費・管理経費等への助成、預かり保育・子育て支援活動等への助成、心身障がい児教育への助成）：休止（該当園なし）

4 私立幼稚園等復興対策支援等事業の実施

(1) 復興対策支援（園児の教育環境確保等に向けた支援の実施）：休止

(2) 災害対策基金事業

災害対策基金を財源として、災害発生時における支援を実施する。

令和 8 年度末積立予定額 0 円（令和 8 年 2 月末日現在）

5 「未来への幸福ナビPROJECT」の実施

“5 歳までの教育環境が我が子の将来を決める”をテーマに【「未来への幸福ナビPROJECT」特別部会】で、好ましい幼児教育環境の創出を目指す（キャンペーンの展開）

6 各委員会等の開催計画等

(1) 総務広報委員会

福島県私立幼稚園・認定こども園連合会は、公益性のより高い活動を行っている公益社団法人の認定を受けた私立幼稚園・認定こども園の団体です。その会員であることに誇りを持って幼児教育に取り組めるよう、各委員会の連携と調整を図ってまいります。また、令和2年度に文部科学省委託事業「ふくしまNEXTプロジェクト」を実施しましたので、可能な活動を継続いたします。

平成27年4月より子ども・子育て支援新制度がスタートして11年目を迎え、令和元年10月からは幼児教育・保育無償化となり、私立幼稚園等を取り巻く環境が大きく変わってきています。市町村によって認定こども園への移行等もあり、より一層の情報を得るため各委員会と連携して課題を整理し、広報内容の充実に努めてまいります。

引き続き、全日私幼連「幼稚園ナビ」に代わる新システム「幼稚園・こども園ジョブナビ」「ゆたかなナビ」や、福私幼連ホームページの「A I P O（アイポ）」等をもっと活用する機会を増やし、さらに今後はSNSも利用しながら、情報伝達の迅速化と有事の際の連絡手段の確保に活用できればと考えております。

1. 事業内容

(1) 総務

- ① 総会・理事会の開催
- ② 教職員永年勤続表彰等表彰関係
- ③ 全日本私立幼稚園連合会等関連団体との連絡調整
- ④ 私学諸団体・教育団体との連絡調整
- ⑤ 方部との連絡調整
- ⑥ 就職セミナーに関すること
- ⑦ 賛助会員の募集

(2) 広報

- ① 福島県私立幼稚園・認定こども園白書の作成（データ化）
- ② 広報活動に関する事項
- ③ ホームページの管理

2. 重点事業

- ① 会員への広報・情報伝達活動
- ② ホームページの活用
- ③ 「ふくしまNEXTプロジェクト」よりの可能な活動の継続（就職フェア等）
- ④ SNS活用事業
- ⑤ 要望等に必要なエビデンスを得るためのアンケート調査
- ⑥ 各委員会へのグーグルワークスペースのアカウント発行
- ⑦ 可能な限りのグーグルドライブへのデータアップ及び共有
- ⑧ 賛助会員の募集活動の強化

(2) 振興政策委員会

背景及び現状認識

全国の出生数は70万人を割り込み、福島県においても出生数は8,000人台に迫る水準となっている。園児数の減少は構造的な課題であり、特に就労世帯の増加に伴う1号認定児の減少は、幼稚園型園の経営に大きな影響を及ぼしている。

また、教職員の採用環境は依然として厳しく、地元養成校からの県外流出や自治体・法人間の採用競争が続いている。

こうした状況の中、今年度で3年目となる「未来への幸福ナビ PROJECT」は、幼稚園教育の魅力発信に一定の成果を上げたが、社会全体への理解促進には引き続き取り組みが必要である。

さらに、私学助成園における運営費補助（一般補助）は十分とは言えず、園児数減少と物価高騰の影響を受け、経営の安定化に向けた新たな県補助金制度の創設が喫緊の課題となっている。

1. 事業内容

- ① 東日本大震災および原発事故に伴う補償・支援の継続的要望
- ② こども家庭庁関連施策（誰でも通園制度・処遇改善等）の動向把握と課題整理
- ③ 私立幼稚園・認定こども園に対する各種補助金増額への陳情
- ④ 福島県私立幼稚園・認定こども園 PTA 連合会事業への協力
- ⑤ 全日本私立幼稚園連合会の振興活動への参画
- ⑥ 私立幼稚園幼児教育振興連盟との連携強化
- ⑦ 市町村ごとの制度運用・補助制度に関する情報収集と会員園への提供
- ⑧ 「未来への幸福ナビ PROJECT」への継続支援（広報・SNS 発信等）

2. 重点事業

- ① 私学助成園の経営安定に向けた新たな県補助金制度の創設要望
園児数減少に伴う収入減を補うため、経営安定支援補助金（仮称）の創設を県に要望する。特に震災・原発事故の影響が残る地域に対しては、加算措置の導入を求める。
- ② 「子ども・子育て支援法」およびこども家庭庁施策の現状把握
誰でも通園制度の県内実施状況を調査し、1号認定児減少への影響を分析する。会員園向け制度説明会を開催市、制度理解の促進を図る。
- ③ 県運営費補助金・施設整備補助金等の増額要望
物価高騰・エネルギー価格上昇を踏まえ、補助単価の見直しを求める。また、ICT 整備や安全対策に関する補助金の拡充を要望する。
- ④ 教員の処遇改善および人材確保策の促進
県独自の処遇改善加算の創設・拡充を求めるとともに、養成校との連携強化、若手教員の定着支援策の検討を進める。
- ⑤ 「幼児教育振興法」の早期実現に受けた対応
全日本私立幼稚園連合会と連携し、国への働きかけを継続する。幼児教育の社会的価値を広く県民に伝える広報活動を推進する。
- ⑥ 物価・エネルギー価格高騰への支援要望
園運営に直結するコスト増への緊急支援を県に求める。実態調査を行い、必要な支援額を算出する。
- ⑦ 要望活動の根拠となるエビデンス収集
園児数、財務状況、人材確保状況、誰でも通園制度の影響等についてアンケート調査を実施し、政策提言の基礎資料とする。

(3) 教育研究・研修委員会

待機児童の減少により国及び各行政が「(保育の)量から質へ」という方針を強く打ち出してきています。各園の保育の質を維持向上の一助となるように、(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が作成している「教育研究課題」「保育者としての資質向上研修俯瞰図」「保育者として身に付けたい資質・能力の道しるべ」も8年度・9年度向けにアップデートされております。その内容を元にしつつ、社会状況や教育動向を加味し、研修・研究内容の方向性を以下の3つの観点で整理しました。

1. 「一人の主体者」としてのこども理解と人権の尊重

こども基本法の理念に基づくと、子どもは単なる「守られる存在」ではなく、意見を持ち、自ら育つ力を持つ「権利の主体」として捉え直すことができます。子どもの小さなサインや声を丁寧に拾い

上げ、その意思を尊重した保育環境の構成や関わり方について研修を通じ学びます。従来の「子ども理解」を最新のエビデンス（発達理論や愛着理論）でアップデートし、一人ひとりの尊厳を守る保育実践を深化させることを目的とします。

2. 多様性を認め合い、共に育ち合うインクルーシブな環境づくり

発達の特性、外国籍、家庭環境の多様化など、園生活における「ダイバーシティ（多様性）」は当たり前のものとなっています。特別な支援が必要な子への対応を一部の担当者の問題とせず、園やクラス全体の育ちとしてどう捉えるか、また、地域や関係機関とどのように連携して孤立させない支援をいかにして行うかを学びます。すべての子どもが「この世界は生きるに足る」と感じられる受容的な保育者とは何かについて研修を通じて考えていけることを目的とします。

3. 保育者のウェルビーイングと同僚性による質向上

質の高い教育を提供し続けるためには、保育者自身の心身の健康と専門性の向上が不可欠です。ICTの活用等による業務効率化（PDCA サイクルの整理）を進めつつ、ECEQ®等の手法を用いて「語り合い、学び合う」組織文化を醸成するための知見を学ぶ研修を進めます。同僚や研修参加者同士で省察を深めることで、変化の激しいVUCAの時代においても柔軟に保育を再構成できる「カリキュラム・マネジメント力」を養うことを目的とします。

以上の観点から、8、9年度においては以下の3つの軸を元に研究・研修を進めるように考えました。

1. エビデンスに基づく「質の高い関わり」の探求

愛着理論や最新の発達理論を再確認し、子どもの感情を揺り動かす体験や、葛藤・協同が生まれる環境構成を事例検討を通して具体化する。子どもの権利を保障する具体的な援助技術を磨く。

2. 「架け橋期」における育ちの共有と連続性の確保

小学校教諭と互いの教育実践を伝え合う機会を増やす。遊びを通した学びをドキュメンテーション等で可視化し、それを基に子どもの具体的な育ちについて共通理解を深め、円滑な接続を図る。

3. 「家庭・地域」と共感し合う開かれた園づくり

子育ての現状やニーズを理解し、保護者と子育ての喜びを分かち合える相談・支援の在り方を学ぶ。地域資源や専門機関との連携を強化し、地域全体で子どもの育ちを支える体制を構築する。

令和8年度の教員研修大会は県北・相双方部担当で開催予定です。対面での研修を通じ、互いの保育を知り合う一つの機会としての可能性を探ってまいります。

1. 事業内容

- ① 第14回福島県私立幼稚園・認定こども園教員研修大会（県北・相双大会）の実施
- ② 新任研修、キャリアアップ研修会（中堅・ミドルリーダー等研修）、リーダー向け特別研修の実施
- ③ ECEQ®の周知と浸透、コーディネーターの育成
- ④ 方部研究活動の推進と広域受講（オープン化）の拡充
- ⑤ 要望等に必要なエビデンスを得るためのアンケート調査実施についての検討（継続調査）
- ⑥ 海外研修の実施

2. 重点事業

- ① 第14回福島県私立幼稚園・認定こども園教員研修大会（県北・相双大会）の実施
- ② 新任研修、キャリアアップ研修会（中堅・ミドルリーダー等研修）、リーダー向け特別研修の実施
- ③ 要望等に必要なエビデンスを得るためのアンケート調査実施についての検討（継続調査）

(4) 経営研究委員会

令和8年度の事業は、これまでの継続的な取り組みに加え、急速に進む幼児人口の減少を背景として、今後求められる園経営の在り方についての研修等を実施してまいります。研修の実施にあたっては、参加者の利便性を考慮し、集合形式とオンライン形式を併用して行います。

継続的な取り組みとしては、各園の経営基盤の安定に資するため、私立幼稚園・認定こども園実態調査の集計・分析を進めるとともに、総務広報委員会が実施するアンケート結果等を踏まえ、持続可能な園経営を担う後継者の育成、喫緊の課題である人材確保に向けた処遇改善や働き方改革など、園経営全般を総合的な観点から捉えた研修を実施します。

また、適正納付金等の算定のあり方についても検討を進めるとともに、こども園委員会、振興政策委員会、教育研究・研修委員会との連携を図りながら、県運営費補助金（一般補助）や公定価格の増額につながる研修の充実を図ります。

さらに、今後想定される災害や園児数の減少による園運営への影響に適切に対応できるよう、連合会として災害被災園復興計画のマニュアル整備や団体としての支援体制のあり方について研究・研修を進め、園経営の安定化に努めてまいります。

加えて、配慮を必要とする子どもの増加は園運営・経営における重要な課題であることから、心身障がい児等に対する財政支援の在り方を含め、研究・研修を進めていきます。

少子化が加速する中で、保育は「量」から「質」への転換期を迎えています。保育の質は多面的かつ複合的なものであることを踏まえ、持続可能な園運営の在り方について、会員園とともに研究と研修を重ねてまいります。

1. 事業内容

- ① 経営全般の研究
- ② セミナーの開催（私立幼稚園・認定こども園設置者・園長・若手後継者研修会、学校運営管理研修会）
- ③ 第41回全日本私立幼稚園連合会設置者・園長全国研修大会（佐賀大会）
【開催日 令和8年10月26日（月）・27日（火）】
- ④ 第33回全日本私立幼稚園連合会東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会（福島大会）
【開催日 令和8年6月26日（金）】
- ⑤ 第14回福島県私立幼稚園・認定こども園教員研修大会（県北・相双大会）第6分科会（設置者・園長向け：マネジメント研修）企画運営担当予定【令和8年8月19日（水）】
- ⑥ 認定こども園制度に関する研修
- ⑦ 幼児教育・保育の無償化に伴う課題等の研修
- ⑧ 人材確保のための研修（働き方改革、処遇改善、就職セミナー、インターンシップ等）
- ⑨ 心身障がい児財政支援等に関する研修
- ⑩ 災害・事故等の危機管理に関する経営的事項の研修
- ⑪ 感染症対策・ICT環境整備（セキュリティ対策を含む）等の研修
- ⑫ 各種補助金・助成金等の活用についての研修
- ⑬ その他

2. 重点事業

- ① 第14回福島県私立幼稚園・認定こども園教員研修大会（県北・相双大会）第6分科会（設置者・園長向け：マネジメント研修）企画運営担当予定【令和8年8月19日（水）】
- ② 超少子化対応の園経営セミナー開催
- ③ 若手後継者勉強会開催
- ④ 心身障がい児の認定・財政支援等に関する研修
- ⑤ こども誰でも通園制度の研修
- ⑥ 人材確保のための研修
- ⑦ 各種補助金・助成金等の活用についての研修
- ⑧ 要望等に必要エビデンスを得るためのアンケート調査

(5) こども園委員会

令和8年度は、少子化の進行とともに保育教諭（保育士・幼稚園教諭）の確保に向けた取り組みは、年齢別配置基準の改正により、9年度末までには確保が必要になってきます。

これまでの単なる人員の補充から、「処遇の抜本的改善」「業務のICT化による負担軽減」「配置基準の見直しによる質の向上」を柱とした多角的なアプローチへと流れが変わってきています。

処遇改善においては、令和7年度に過去最大となる10.7%の賃金の底上げが実施され、8年度も5.3%の引き上げが予定されるなど、他業種との賃金格差の解消が図られています。

また、配置基準の見直しにより、一人ひとりの負担を減らし、定着支援に向けた取り組みが行われてきており、利用定員の適正化と保育教諭確保は車の両輪であることを深く認識し、持続可能な園運営の体制への取り組みが求められる時代になってきています。

課題山積の時代ですが、未来を見据えた認定こども委員会の担う役割は、今後ますます大変重要になってくるとお思いますので、皆様の忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

1. 事業内容：事業の目的

- ① 施設型給付園・認定こども園の課題の収集
- ② 施設型給付園・認定こども園経営の研究
- ③ 最新情報の収集と情報の発信
- ④ 各委員会との連携

2. 重点事業：事業目的を達成するための対策

- ① 課題の収集に向けたアンケート調査
- ② 他委員会と連携による県や国への要望等の実施
- ③ 年2回の委員会の開催（情報収集と意見集約等）

(6) 「未来への幸福ナビPROJECT」特別部会

令和8年度も令和6年度から始まった「未来への幸福ナビPROJECT」を進めていきます。

“5歳までの教育環境が我が子の将来を決める”をテーマに好ましい幼児教育環境の創出を目指していきます。

現在、若い世代の情報収集がネット中心になっていることをうけて、SNSでかけがえのない幼児教育、子育ての大切さを福島県内の子育て世帯に向けて積極的に情報発信していきます。

加盟園の皆様も、自園でSNS等による発信をおこなっていることと存じます。今回、福島県私立幼稚園・認定こども園連合会が運営することで、自園SNSとは違った角度、切り口で幼児教育の価値を発信できるのではないかと考えています。

同時に、情報を効率よく発信していくためのSNS活用、マーケティング戦略の実証研究になるのではと考えています。

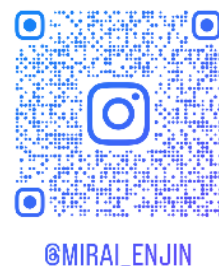
おかげさまでInstagram『MIRAI ENJIN』フォロワーが1000を超えました。

1. 事業内容

- ① SNS、ホームページによる保護者への情報発信
- ② テレビ、新聞等による保護者への情報発信

2. 重点事業

- ① Instagram『MIRAI ENJIN』による情報発信
- ② テレビ スポットCM等による情報発信



Ⅱ 労働保険事務組合事業

事業内容：労働保険事務組合として当法人加盟の園から委託を受け行っている労働保険事務：休止

Ⅲ 法人事業関係

1 総会の開催

(1) 定時社員総会

日時 令和8年6月上旬

場所 福島市内

議題 令和7年度事業報告承認の件などについて

(2) 社員総会

日時 令和9年3月下旬

場所 福島市内

議題 令和9年度事業計画（案）の承認の件などについて

2 理事会の開催

(1) 定時社員総会開催関係理事会

日時 令和8年5月上旬

場所 福島市内

議題 令和7年度事業報告承認の件などについて

(2) 社員総会開催関係理事会

日時 令和9年3月上旬

場所 福島市内

議題 令和9年度事業計画（案）の承認の件などについて

上記のほか必要がある場合に開催する。

3 正副理事長会議の開催

必要がある場合随時開催する。

4 執行運営委員会の開催

必要がある場合随時開催する。